

# 会 報 ウッディ阿賀

第 2 号 1999年6月



## ログハウスの建設位置決まる 抜群のロケーション

待ちに待った春がやって来た。ここ三川村上戸谷渡長谷の山林（星野求行氏）での現地作業が再開された。月2回のペース、4～5月の作業には毎回40人前後が参加し、新芽萌える森の息吹きを全身に感じながら生き生きと動き回った。

その結果、小さな流れわきの“昼食広場”には作業場兼材木置き場が出来上がり、最大の関心事であるログハウスの建設位置（写真）も決定した。その場所は間伐作業をした杉林と雑木林の境目。斜面のてっぺんで好条件とは言えないが、上の写真の右側のロケーションが抜群、谷を下って上がる森の切れ目の空には五泉・村松境の山並みが望める。

一辺5・4mの設計通りに周りを決め、ハウスを支える16個の礎石の配置も終わった。各人が「大きな窓をここに」、「こちらにベランダを」—など思い思いの夢を描いていた。込田世話役代表は「これまでに伐採した木では量的はもちろん、1本1本のサイズにも問題がある。これからが正念場」を強調した。

# 採りたての山菜鍋で活カ

特  
集



間伐した木の状態や寸法の  
調査（上）と「人海戦術」の  
丸太運び（下）

◇建設位置の礎石配置は  
入念に。測量ポールを  
手に何度もやり直す



◇ベテランの指導で目印をつけた  
杉の木の伐採、表情は真剣



「夢」  
ロクハツス  
 実現へ熱意を結集



現地での昼食は活力源である  
 とともにチームワークづくりの  
 の場でもある。時には豚汁、  
 時には山菜汁と鍋は欠かせぬ

◇骨組みとシートを張っただけながら“心臓部”とも  
 いうべき作業場である



◇チェーンソー操作の練習に  
 励み、丸太を使った受け口  
 伐りを繰り返し行った

## 実り大きい冬期学習

積雪期の1～3月は新潟市・鳥屋野公民館を会場に月1回計3回の勉強会を開きました。各回とも事務局が用意した資料が足りなくなり、あわてて追加コピーに走るほどの盛況ぶりでした。

◇第1回（1月9日）は、「木の性質・木の使い方」など基礎的知識や専門用語について。

◇第2回（2月13日）は、宿題の形でそれぞれが「ログハウスの設計案」を持ち寄って話し合いを。

◇第3回（3月13日）は、山林作業の安全について。ビデオを見たり、森林組合に勤務している会員の話を聞いたり。安全な服装、ヘルメットや笛の装備、さらには危険な木の伐採例などを。

以上の学習は、これまで「素人だからといった甘えが許されない」ことを知っただけでも大変有益だったと考えます。 （込田幸吉世話役代表）

### <ウッドィ阿賀の会役員>…50音順

【世話役】込田 幸吉（工務店経営）＝代表、星野 求行（山林所有者）

【幹事】伊藤 武文（森林組合勤務）、江添 武（会社員）、

遠藤 辰也（専門学校講師）、桑原 勝則（森林組合勤務）

山内 孝（会社員）、渡辺 眞（公務員）、小柳 利夫（会社員）

萩原 智志（建築業）萩原 学（同）

【事務局】長谷川 裕子（新潟林業事務所）

トビックス 人間の営みにトイレは必要不可欠。現地に簡易トイレが設置されました。リース会社の中古品払い下げ抽選（競争率50倍）で見事に当たりを。通常のリース料は月単位1万円も、それが僅か3千9百円とは、でかした、でかした。よほどウンがっいたんですね。



4月1日付で長谷川裕子（ひろこ）さんが新潟林業事務所（村上同）へ着任、前任の寺島勝さんは相川同へ異動されました。

長谷川さんは茨城県出身、新大農学部林業科卒。H7年県に採用された若手の林業技術指導員です。